

---

# 刹那の美しさ

冴木よしえ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

刹那の美しさ

### 【Z-マーク】

Z23335C

### 【作者名】

冴木よしえ

### 【あらすじ】

15メートル下にある駐車場を見つめていた。一歩踏み出せば全てが変わる。その時に、青年は現れた。

強く吹いていた風は、自分を待っていたかのように静かになった。眼下に広がる町は、自分の育った台地。強く照りつける太陽は、コンクリートを溶かすかのように輝いていた。裸足の足に、焼けるよう吸い付く小さな石を足の甲で払う。こんな時にも、こんな小さな不快が気になる。それがなんだか可笑しくて、少し顔を歪めて笑つた。

一步前に進む。

十五メートル下には、この建物の駐車場がある。東端に赤い乗用車と、二つ離れてシルバーのワンボックスが停まっていた。届かないよな、そう思いながら、意味もなく視線で確認する。自分の足元から放物線を描く。じくじくと頷いて一つ深呼吸をした。

「どこへ行くの？」

振り返ると、明るい茶色の髪をした青年がこちらを見ていた。黙つて、下を指差す。青年は近づいて、僕の肩を触った。少し長めの前髪が風に煽られて、額を露にした。

「そうなの。だからキレイな顔をしてるんだね。傍に、いてもいいかな？」

何をするつもりだらう。そう考えている間に、青年は靴を脱ぎ、靴下を脱いだ。自分と同じように裸足になつたかと思うと、隣に立つたのだ。強い風が吹いたら、十五メートル下のコンクリートに叩き付けられる危険がある。思わず心配して、青年を見つめてしまつた。青年と視線が合つ。すぐに思い直して、足元を見つめた。自分の知つたことではない。

呼吸を整えるように、リズム良く空気を肺に入れる。そうしていふうちに、ふんわりとした気分になってきた。バランスを崩すほどでもないが、眩暈がするかのようにフラフラと重心が動いているの

を感じる。心地よい眩暈。このまま重心が大きく傾けば、すべてが終わるのだろう。

自分の中に意識が集中しているときには、再び青年が話しかけてきた。意識が一気に外へと向く。

「僕ね、すごく幸せなんだ。今が最高潮。ね？ 僕もキレイな表情してるでしょ？」

邪魔だ。正直、そう思つた。この青年の目的が掴めない。一旦この場所から離れようと踵を返した。

「幸せな今のうちに、一番キレイな状態で終わるのって素敵だと思わない？」

振り返るとそこに青年はいなかつた。

青年の並んだ靴が、自分の足元にある。状況から、青年のその後を考えるのは簡単なことだった。

「賛同できないな」

小さな声で呟く。青年の問いに答えた声は、もう彼に届くことはなかつた。

少し離れたところにある自分の靴まで、ゆっくりと歩く。いつの間にか、風が強くなつていた。足の裏に付いた小石を払つてから靴を履く。

眉間に皺を寄せて、空を見上げた。熱い風が舐めるように顔を撫でる。

不愉快だつた。

風も、横取りも、何もかも。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2335c/>

---

刹那の美しさ

2010年10月10日22時00分発行